

[No. 1]

オーバーツーリズムについて、それが起きる背景を考察した上で、解決すべきと考えられる課題を抽出し、その課題に対してデザインがどのような役割を果たすことができるか、我が国においての実例や想定される事例を具体的に挙げながら論じなさい。
なお、解答に当たっては、下記の資料1～5を参照してもよい。

資料1

著作権未処理のため、公開できません。

資料2

著作権未処理のため、公開できません。

[No. 1]

資料3

著作権未処理のため、公開できません。

資料4

著作権未処理のため、公開できません。

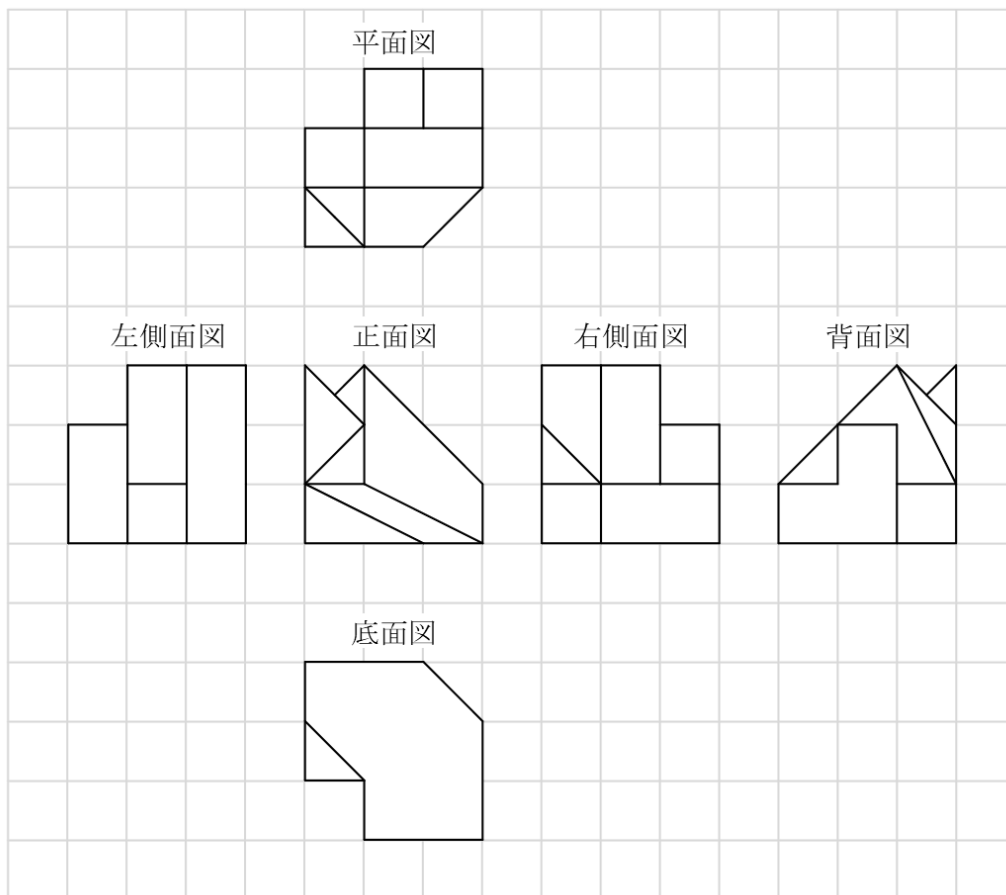
資料5

著作権未処理のため、公開できません。

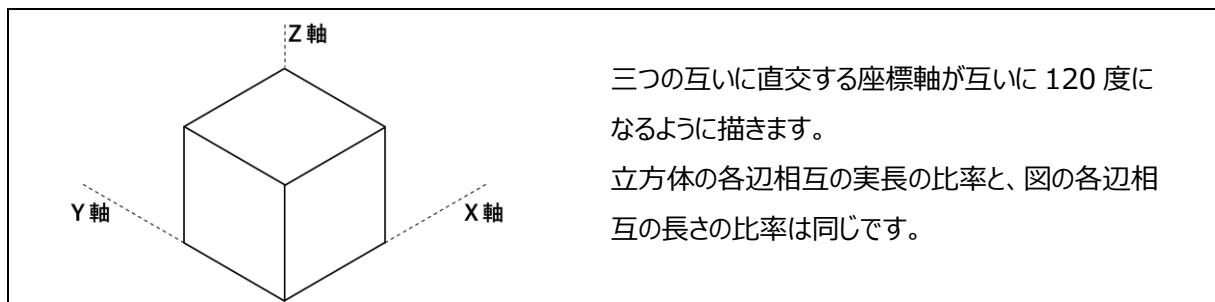
[No. 2]

以下の六面図によって表される立体の「正面、平面及び右側面を表す斜視図」と、「背面、底面及び左側面を表す斜視図」を、(例)に倣い、等角投影図法を用いて作成しなさい。

なお、各図の実線は立体の稜線を表し、薄板の端面を表すものではない。この立体には模様及び曲面はないものとする。また、作図に当たり陰影の有無は問わない。



(例) 等角投影図法による作図例 (立方体)

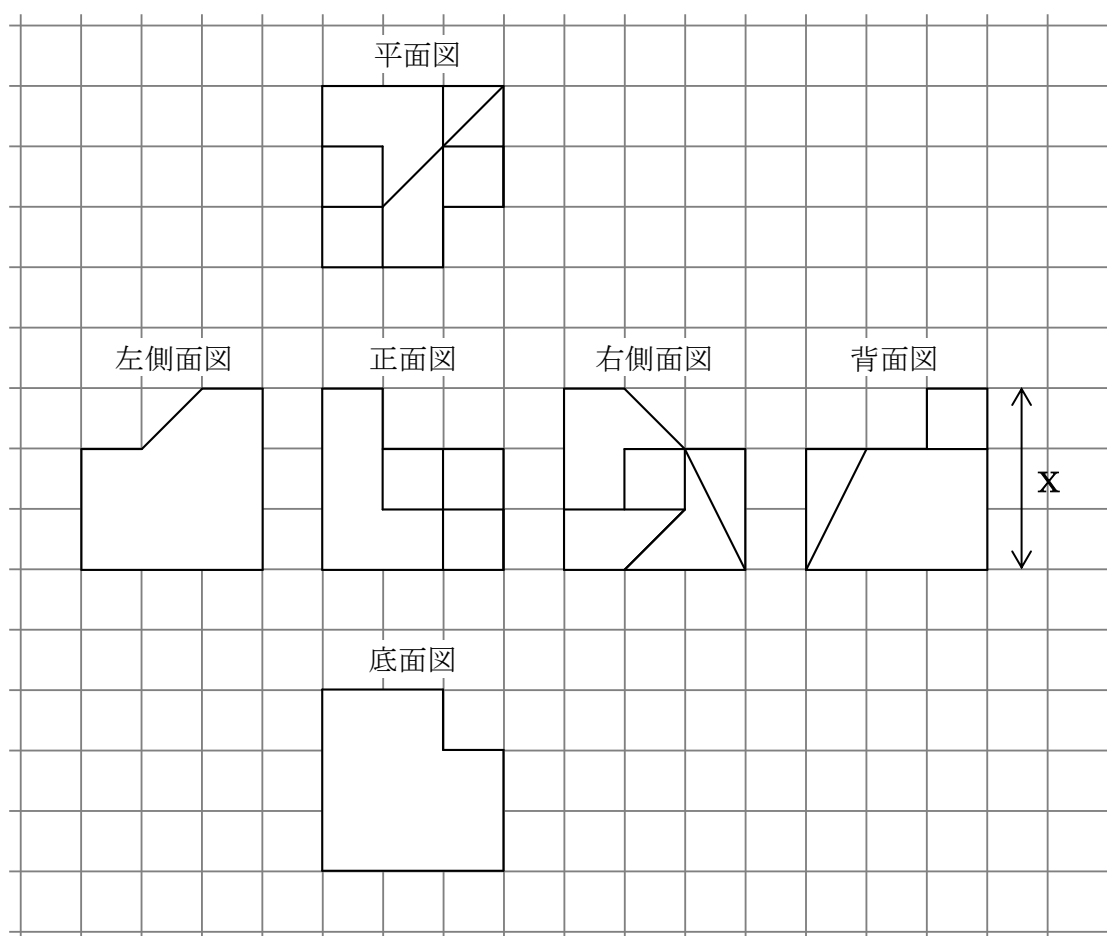


[No. 3]

以下の六面図によって表される立体Aは、ある立体Bと隙間なく組み合わせで一辺がXの立方体となる。「立体Bの背面、底面及び左側面を表す斜視図」を、(例)に倣い、等角投影図法を用いて作成しなさい。ただし、Bの背面、底面及び左側面は、それぞれ、Aと組み合わせたときのAの背面、底面及び左側面と同じ向きの面とする。

なお、各図の実線は立体の稜線を表し、薄板の端面を表すものではない。この立体には模様及び曲面はないものとする。また、作図に当たり陰影の有無は問わない。

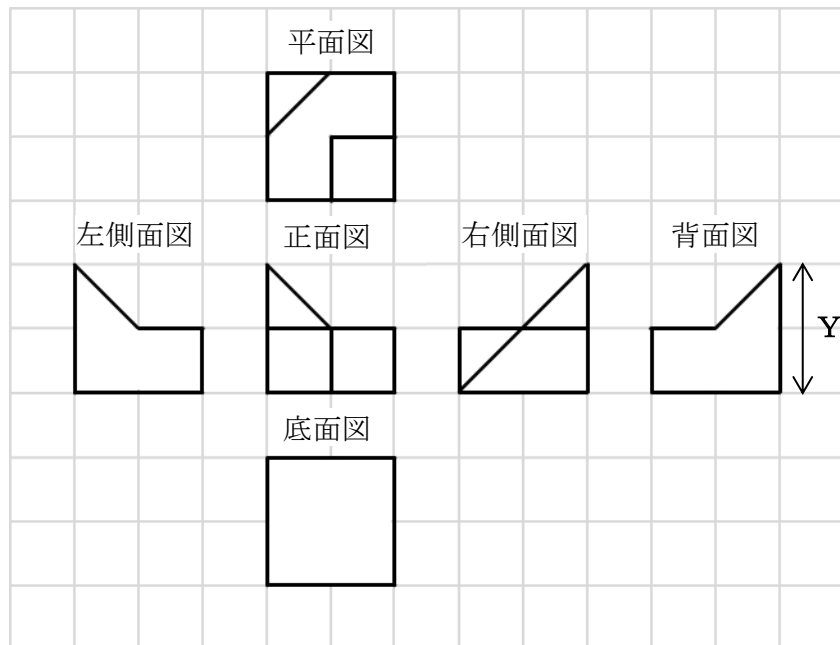
立体A



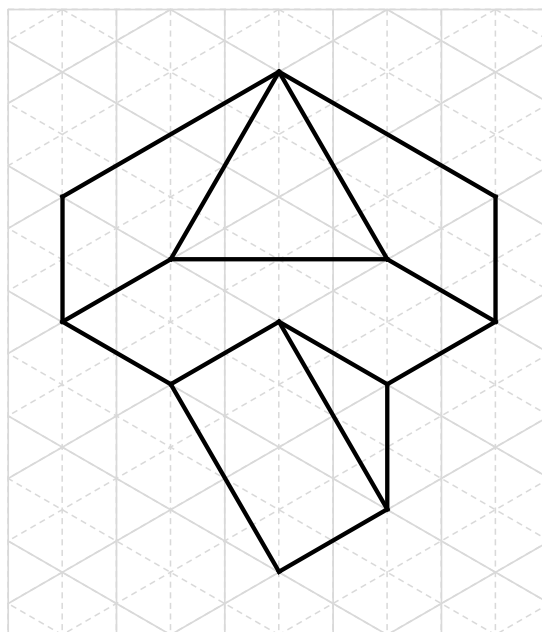
[No. 3]

(例)

立体ア



立体アと隙間なく組み合わせて一辺がYの立方体となる
「立体イの背面、底面及び左側面を表す斜視図」



[No. 4]

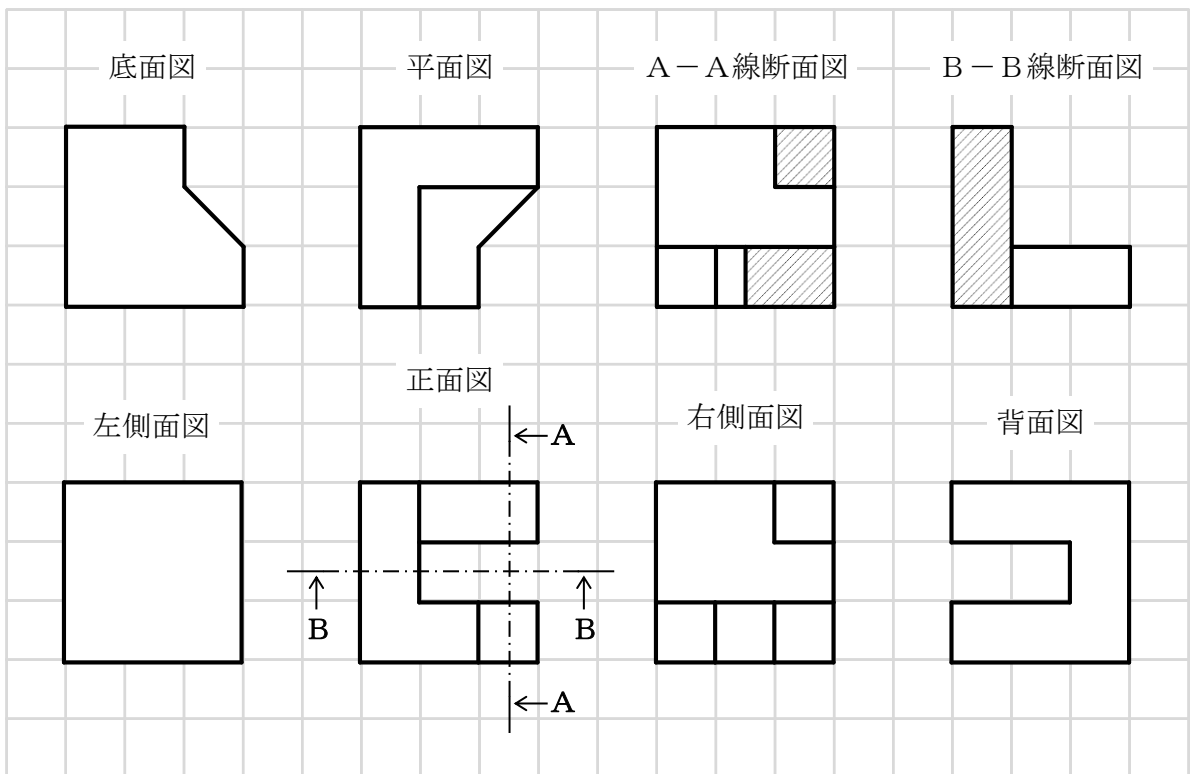
以下の六面図、A-A線断面図、B-B線断面図及びC-C線断面図によって表される立体の「正面、平面及び右側面を表す斜視図」を、(例)に倣い、等角投影図法を用いて作成しなさい。

なお、各図の実線は立体の稜線を表し、薄板の端面を表すものではない。この立体には模様及び曲面はないものとする。また、作図に当たり陰影の有無は問わない。

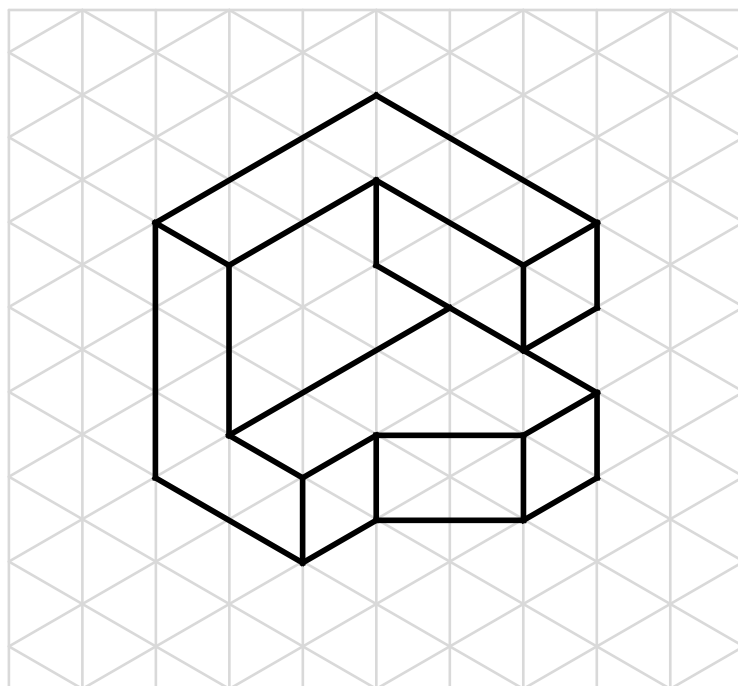


[No. 4]

(例)



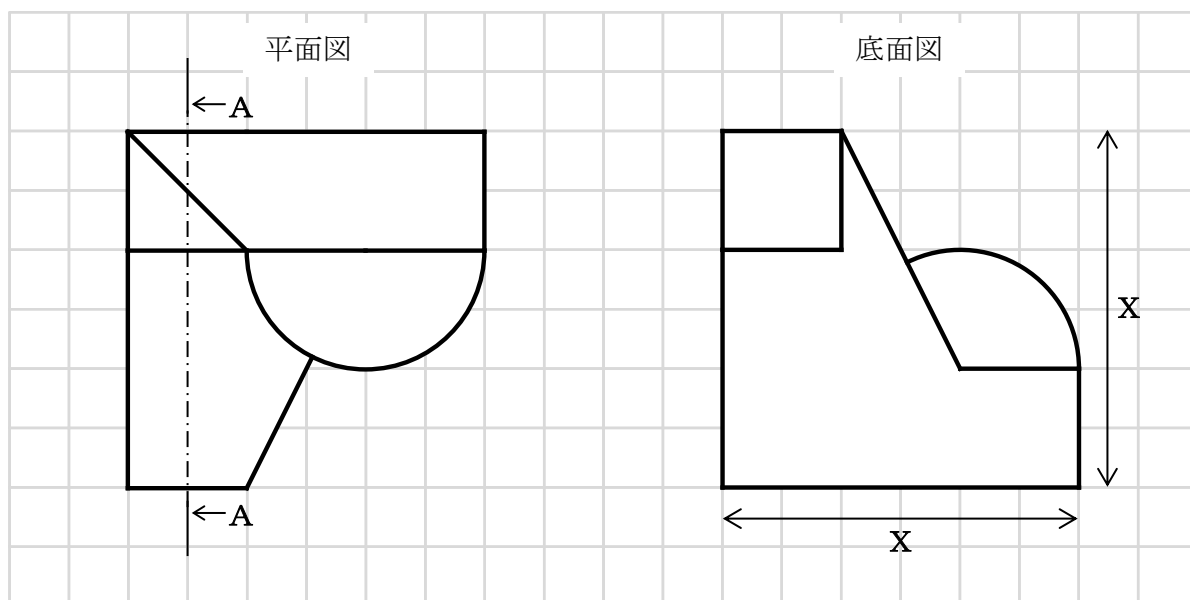
「正面、平面及び右側面を表す斜視図」



[No. 5]

以下の平面図及び底面図によって表される立体を二つ想起し、それぞれ立体ア、立体イとして、各立体の「正面、平面及び右側面を表す斜視図」と「A-A線端面図」を、(例)に倣い作成しなさい。ただし、以下の条件を満たすものとする。

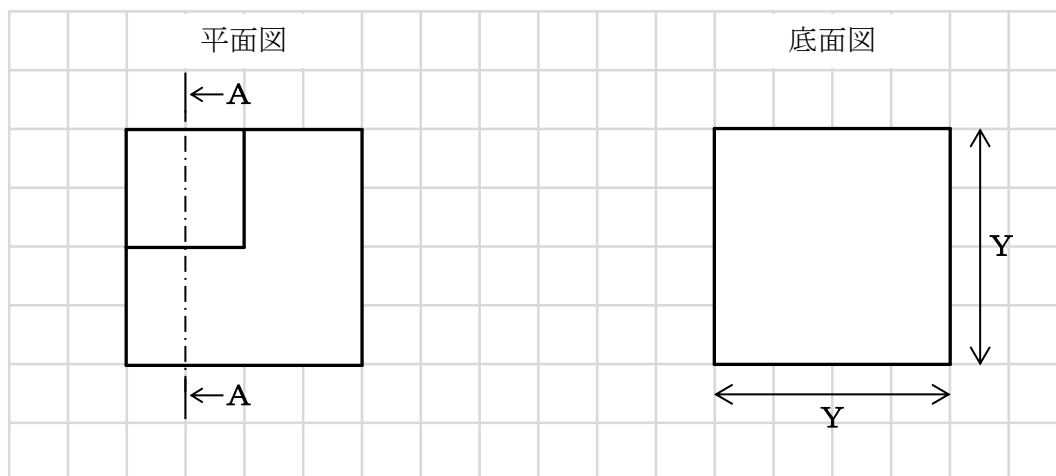
- ・アは「正面、平面及び右側面を表す斜視図」に半円柱が表れる。
- ・イは「正面、平面及び右側面を表す斜視図」に半球が表れる。
- ・ア、イの幅、奥行き、高さはいずれもXとする。
- ・ア、イの「A-A線端面図」は、それぞれ異なるものとする。
- ・ア、イの「正面、平面及び右側面を表す斜視図」については、等角投影図法を用いて作成するものとする。



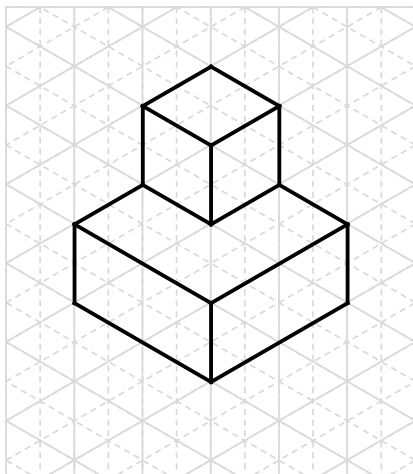
なお、各図の実線は立体の稜線を表し、薄板の端面を表すものではない。この立体には模様はないものとする。また、作図に当たり陰影の有無は問わない。

[No. 5]

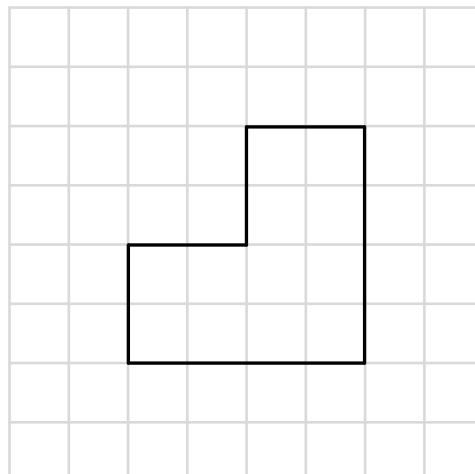
(例) 平面図及び底面図が次のように表される高さYの立体a、立体b



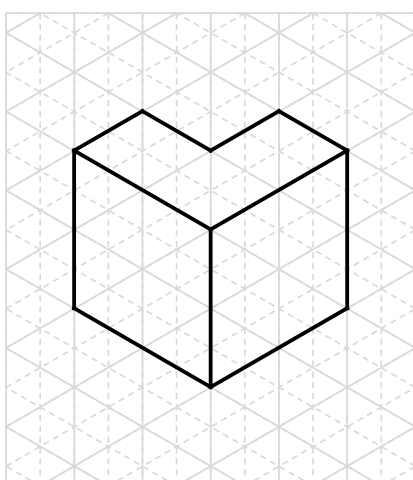
立体aの「正面、平面及び右側面を表す斜視図」



立体aの「A-A線端面図」



立体bの「正面、平面及び右側面を表す斜視図」



立体bの「A-A線端面図」

